



## 新年のご挨拶



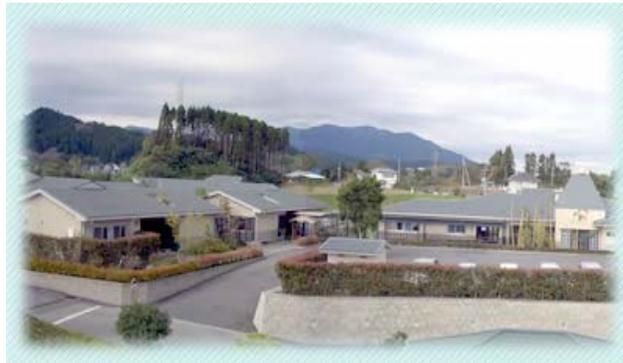
特定医療法人 耕和会 理事長  
社会福祉法人 耕和会 理事長

迫田 耕一郎



あけましておめでとうございます。創業30周年を迎えた耕和会の取り組みの一部を紹介し新年の挨拶と致します。以下はGH「太陽の丘」介護士長（川名）と管理者（濱砂）の報告を参考に小生が公益社団法人「日本認知症グループホーム協会」機関誌「ゆったり」の連載記事「千思万考」に寄稿したものです。

認知症グループホーム（GH）「太陽の丘」は平成14年に立上り3ユニットで運営している。老健「サンヒルきよたけ」に隣接、迫田病院に17分、宮崎大学病院のある農村地域に立地している。



グループホーム太陽の丘  
〒889-1601 宮崎市清武町木原 5886-4  
(TEL: 0985-85-8668)

### ケアへの取り組み

理念は再構築された。初期の理念は「私らしく貴方らしい生活の継続を、豊かな心でゆったり寄り添って」であったが現在「ただいまと帰れる場所を創ろう」と取り組んでいる。きっかけは激しい興奮で行方不明になった利用者との出会いである。興奮を引き起こした故郷への絶ち難い思いに気づき「心理と行動の理由」を探る「ふるさと訪問」が始まった。職員は利用者を伴い家族と生まれ育った家や思い出の場所と一緒に訪れ、彼岸やお盆にお墓参りをしている。

日常生活に倶楽部活動を取り入れている。木工や機械いじり等をする「男の浪漫部」は男性の活躍の場を増やし屋外で気分を調整しよう、日光浴で体内時計をリセットしよう、昔取った杵柄を活かし生活意欲を引き出そうと試みている。裁縫や張り絵、生け花などの「手芸倶楽部」は非日常的な活動で記憶を呼び起こし脳の活性化を促そうという試みである。作品を町内の「きよたけ交流プラザ四季の夢」や「販売所」に展示し称賛される機会を作り地域住民の一人として暮らし続けていただくという試みである。ご家族が自発的に講師になる「珠算倶楽部」は30分の珠算と30分のお茶会をする。検定試験に挑戦し家族と職員が参加し授与式を行っている。達成感を味わって頂き称賛される場を増やし生活に自信を取り戻そうという試みである。敷地内を散歩し地域を散策する「散歩ケア」は歩行や心肺や排便機能の維持向上や転倒予防、外気浴による体内時計のリセットによる生活リズムの安定に繋げようという試みである。用もなく連れ出すのではなく花や木への水やりや新聞取り、ごみ捨てなど、役割を持たせながら楽しめるように工夫している。徘徊が著しい新規利用者に活用している。地域住民が行う「グランドゴルフ」にも参加して頂いている。

### 人材育成への取り組み

法人では若手リーダー13名が90時間の研修を経て新たな人事考課制度を導入した。主眼は個人の強みを発揮できる目標管理と実践後考課である。当グループホームでは事業計画を策定し行事や日常的ケアや看取りケアなど、状況に応じてリーダーを入れ替えている。役職者やリーダーは「して見せて言って聞かせてさせてみて褒める」主任や介護士長は「話し

合いに耳を傾け承認し任せてみる」管理者と所長は「やっている姿に感謝し見守って信頼しよう」を合言葉にしている。達成可能なノルマを与え、出来る業務を委譲し、苦手意識を克服させ、成功体験をさせようという試みである。個人の価値観に頼らないケアマネージメントを目指してチーム編成をしている。多職種のチームで新規入居者の事例検討を行い、病歴・疾患別特徴・特徴的心理行動症状と中核症状・薬の副作用など、多面的分析を行い、配慮すべき課題を共有し回覧している。コミュニケーションを「ねぎらいの場」として活用している。

### 地域づくりへの取り組み

傾聴ボランティアの出前養成講座を行って最終実習を受け入れ、8名のボランティアに協力して頂いている。職員の知らない情報の穴埋めや関係構築に役立てようという試みである。介護士長は太陽の丘の住民代表として清武まちづくり協議会に加盟し地域の環境福祉部長として行事を企画している。利用者はそれらのイベントに参加し生活エリアの拡大や認知症グループホームの啓発に役立っている。健康福祉講演会は地域住民や世代間の交流に役立っている。利用者がひまわりの種を取り地域住民や保育園児との種まきをする環境美化活動やミカン狩り、盆踊りフェスティバル、のんびり歩こう会、星を見る会にも職員が利用者を伴い参加している。また山林や公園の清掃、安全・安心パトロール隊に参加し徘徊者や学童の登下校を見守り危険個所の把握に努めている。これらは徘徊で離棟する利用者の捜索や地域への協力要請を容易にし、地元企業や異業種間の情報交換に有用なボランティア活動となっている。「言葉が通じなくても耳を傾け声掛けすれば人は心を通じあえる」ことを学ばせてくれたのは異文化圏デンマークとの交換留学である。数年に亘り行った。

### 直面する課題と経営をめぐる問題提起

介護報酬の漸減は経営を圧迫し人員増加が図れなくなり、スキルアップ研修会への参加調整が困難になりチームマネージメントに支障を来している。それが職員のモチベーションを低下させ、パワハラやうつ病や適応障害を生み職員の心理的負担を増大させている。経年者朽化した施設は生活歴に応じた空間の確保や浴室改修など重症者への対応を困難にし、職員の身体的負担を増大させている。認知症の理解や連携に乏しい医師や地域ケアマネ、看取りケアやなじみの面会者への対応、家族会への参加率低迷など多くの課題が残されている。

### 経営者として考えること

法人は「全てを患者さまのために、すべてを利用者さまのために」を理念に「良質な医療福祉の提供と健全経営」を行動目標とし「鬼手仏心（※欄外参照）の醸成と「欠損する部分の穴埋め」に精を出してきた。医療や介護の技術は鬼の手であり患者さんや障害を抱える人にとって有用である。しかし不治の病や老化や108つの煩惱への対応は出来ない。人の心に耳を傾け観察し声掛けしながら許しあう（LOVE）そんな姿勢、仏の心が私たちに求められている。私達はこの世に生れ父と母とに出会い、幸せになるために生まれてきた。愛しい人を護るために生まれて来た。そして傷つけられ傷つけて救われながら生きている（さだまさし「いのちの理由」より）。慈悲の心を培いながら賜った使命を全うしたいと愚慮している。皆様の心に安らぎが宿り益々良いお仕事がなされますようにと念じている。微笑みは最高のお化粧である。

### 鬼手仏心

「鬼手とは医療技術、しかしこれのみで老化や難病には対応できない。医療技術に加えて慈悲の心（仏心）が必要である」との意味。

